



キミと一緒に、育っていきたい。  
**Komaki**

# 新小牧市立図書館の建設方針

平成29年6月

小牧市

## 内容

---

策定の背景と趣旨 .....	1
1. 新図書館建設の基本方針 .....	2
2. 管理運営 .....	2
(1) 管理運営形態 .....	2
(2) 蔵書目標数 .....	2
(3) 機能 .....	3
3. 設計・建築の方針 .....	6
(1) 建築計画の方針 .....	6
(2) 建設位置 .....	6
(3) 規模 .....	6
(4) 駐車場及び駐輪場の整備 .....	6
4. 事業費 .....	7
(1) 建設工事費 .....	7
(2) その他経費 .....	7
(3) 財源 .....	7
5. 図書館周辺施設 .....	8
6. 今後のスケジュール .....	8

## 策定の背景と趣旨

---

新図書館の建設については、平成 27 年 10 月 4 日に実施された新小牧市立図書館建設計画に関する住民投票結果を受け、住民投票時点の計画を白紙とした上で、市議会からの要望もあり、市教育委員会の諮問機関として、学識経験者、各種関係団体の代表者、公募市民ら 21 名を委員とする新小牧市立図書館建設審議会（以下、「審議会」という。）を設置し審議を進めることとなった。

平成 28 年 4 月 13 日に開催された第 1 回審議会において、新小牧市立図書館の建設方針について市教育委員会から審議会に諮問を行い、平成 21 年 3 月に策定された「新小牧市立図書館建設基本計画書」を確認しながら審議が進められることとなった。そして、計 17 回の審議を経て、平成 29 年 2 月 8 日付けで審議会から市教育委員会に答申が行われた。

そのため、審議会からの答申内容をもとに、現在の小牧市にとってふさわしい図書館という視点から、あらためて検討を行い、この度、今後の設計・建設業務に反映させるべく「新小牧市立図書館の建設方針」を策定したものである。

## 1. 新図書館建設の基本方針

新図書館の建設については、次の6つの基本方針をもとに進めていくものとする。

- ① すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館
- ② 市民の様々な活動を支援する資料と情報が豊富な図書館
- ③ 課題解決のための図書館、情報発信のための図書館
- ④ 時代の変化に対応できる図書館
- ⑤ 市民参画の機会と場を提供する図書館
- ⑥ 人が集い、行きかい、まちの活力につながる図書館

## 2. 管理運営

### (1) 管理運営形態

市直営（窓口業務委託を活用）を原則とする。ただし、市が主体的に運営していく観点から、現行の窓口業務委託の業務分担の見直しを行う。

なお、管理運営に関する具体的な方針については、新図書館の設計と併行して、小牧市立図書館協議会等の関係機関から意見を聴きつつ、作成していくものとする。

### (2) 蔵書目標数

蔵書目標数 約50万点（開架 約18万点・閉架 約32万点）

この目標数については、新図書館の供用開始時点の数値ではなく、将来における最終的な数値である。また、蔵書目標の内訳については、今後特色ある収集を図るほか、社会情勢の変化等に対応した収集を行うことから、審議会からの答申に示された内訳例をもとに検討する。

#### 【蔵書目標の内訳例】

区分		蔵書の種類	冊・点・種
開架	地域館機能	一般図書・参考図書	46,000冊
		児童図書	32,000冊
		ティーンズ	7,000冊
		雑誌（逐次刊行物含む）	150種
		新聞	10紙

		視聴覚資料	18,000 点
		障がい者サービス	2,000 点
		小 計	85,000 冊 + 20,000 点 + 150 種 + 10 紙
	中央館機能	専門図書	50,000 冊
		地域・行政	11,000 冊
		多言語図書	15,000 冊
		雑誌（逐次刊行物含む）	150 種
		新聞	30 紙
		小 計	76,000 冊 + 150 種 + 30 紙
	開架合計		161,000 冊 + 20,000 点 + 300 種 + 40 紙
閉架	地域館機能 中央館機能	上記各資料及び雑誌・新聞 のバックナンバー含む	319,000 点
合 計			500,000 点 + 300 種 + 40 紙

### （３）機能

新図書館には、下表の機能を基本として検討を進めるものとする。

機能	内容	収容可能 冊数
(1) 館全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無線 LAN</li> <li>・地域冷暖房の活用</li> </ul>	
情報検索端末スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の発展やサービスの多様化に対応し、IC チップ及び自動貸出機など、より利便性の高い端末機器の導入を検討</li> </ul>	
(2) 地域館機能		
(ア) 一般図書開架・閲覧 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般図書を配架</li> <li>・多人数掛けや個人閲覧席をバランスよく、できる限り多くの閲覧席を確保</li> <li>・準備室を備えた貸出・返却及びレファレンスカウンターを置き、気軽にレファレンスや読書相談ができる環境を整備</li> </ul>	46,000 冊
(イ) 新聞・雑誌コーナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌（専門的なものを覗く）、専用の閲覧テーブル</li> </ul>	
(ウ) 視聴覚コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CD、DVD 等、視聴席を設置</li> </ul>	18,000 点

(エ) 児童コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用カウンターを設置し、書架高は低くする</li> <li>・おはなしコーナーを併設し、おはなし会がない時には、様々な使い方ができるように開閉が可能な間仕切りを設置</li> <li>・えほん図書館と資料収集等の差別化を図る</li> </ul>	32,000 冊
(オ) ティーンズコーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10代向けの文庫、新書等を集め、中高生が集まりやすいコーナーとする</li> <li>・グループ行動を想定し、ある程度の話し声が他の利用者の迷惑にならない配置</li> </ul>	7,000 冊
(カ) 障がい者サービスコーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料閲覧コーナー、対面朗読室</li> </ul>	2,000 点
(3) 中央館機能		
(ア) 専門図書開架・閲覧2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本図書、専門書、参考図書、地図、逐次刊行物及び法令集等を置くスペース</li> <li>・調査研究や調べ物ができる研究スペース</li> <li>・第二開架（公開書庫）を導入し、基本的な資料集等を配架</li> <li>・準備室を備えた貸出・返却及びレファレンスカウンター等を設置</li> </ul>	50,000 冊
(イ) 地域・行政資料コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料、地域資料、行政資料を置くスペース</li> </ul>	11,000 冊
(ウ) ビジネス支援コーナー・情報コーナー・新聞・雑誌コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業やビジネスに関する資料や専門的な新聞・雑誌を置くスペース</li> </ul>	
(エ) 多言語図書コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多読図書のほか、外国語関連と外国語による各国を紹介した資料集を置くスペース</li> </ul>	15,000 冊
(4) 学習援助スペース		
(ア) 学習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やグループで勉強等できる席を設置</li> </ul>	
(イ) 多目的会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議、応接、市民の研究会や職員の研修、ボランティア活動（優先利用あり）のスペース</li> <li>・スクリーンなど視聴覚用の設備を備え、多目的に活用</li> <li>・壁間仕切りにより、部屋の大きさを調整</li> <li>・夏休み期間などは、臨時学習室としても利用</li> </ul>	
(5) バックヤード機能		
(ア) 閉架書庫スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納量確保のため、集密移動棚を導入</li> <li>・貴重本は、劣化を防止できる保管環境を整備</li> </ul>	319,000 点
(イ) 施設配本・学校支援・配本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配本用の車庫、作業室、施設配本用の書庫</li> </ul>	(50,000 冊)

スペース		※50万点に 含まず
(ウ) 事務作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域館と中央館の事務にわけるとはなく、各図書館業務の意思疎通を行うための事務室</li> <li>・円滑な業務処理を行うための作業室</li> <li>・休憩室、更衣室、コンピュータサーバ室等</li> </ul>	
(6) 利用者利便機能		
飲食コーナー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用者が長時間にわたり図書館を利用できるように食事を快適にとれる憩いの場として整備</li> <li>・喫茶店等の導入を検討</li> </ul>	
(7) その他		
(ア) エレベーター等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉架書庫の近くに専用エレベーターを設置</li> <li>・通路、階段、ロッカースペース</li> <li>・多目的トイレ（オストメイトトイレ、折りたたみベッド等）</li> <li>・収納倉庫（ボランティア用）等</li> </ul>	
(イ) ギャラリー・展示やイベントのスペース	・イベントや市民の活動・発表の場として、小企画展等に活用ができるスペース	
(ウ) 屋外スペース	・回遊性が高く、市民が集う場として魅力のある空間	
(エ) 機械室等	・DHC（地域冷暖房）、受水、空調、電気	
合計		500,000点

### 3. 設計・建築の方針

---

#### (1) 建築計画の方針

---

新図書館の建築計画については、次の7つの方針をもとに進めていくものとする。

- ① ユニバーサルデザイン対応
- ② 耐震性の確保と災害時の対応
- ③ 環境への配慮、省資源・省エネルギー対応
- ④ ICT (Information and Communication Technology) 化への対応
- ⑤ まちの景観に調和したデザインの採用
- ⑥ 市民、利用者の活動が見えやすい計画
- ⑦ 施設の多様性・可変性への配慮

#### (2) 建設位置

---

小牧市中央一丁目 234 番地外 約 3,800 m<sup>2</sup>  
(小牧駅西 A 街区内 現市営小牧駅西駐車場及びにぎわい広場)

#### (3) 規模

---

延床面積 6,000 m<sup>2</sup>以内 (駐車場を含まない)

#### (4) 駐車場及び駐輪場の整備

---

##### ① 駐車場

敷地内に附置義務台数 (延床面積 6,000 m<sup>2</sup>の場合は 40 台) 以上を設置することとし、周辺市営駐車場とあわせて 130 台以上確保することとする。

##### ② 駐輪場

140 台以上設置する。ただし、夏休みなど一時的な利用増加に備えて、臨時駐輪場を設置できるよう設計段階から配慮する。



## 4. 事業費

---

### (1) 建設工事費

---

新図書館の建設工事費は、約 35～40 億円と想定する。

※建物本体工事費（駐車場工事費を除く）については、近年建設された他自治体の図書館の工事費を参考とする中で、工事費が図書館の規模（延床面積）、建物構造等及び将来の物価変動等により変わるものであることを考慮して坪単価を 165～190 万円と幅を持って想定し、本方針の新図書館の規模（延床面積）が 6,000 m<sup>2</sup>以内であることから約 30～35 億円と想定した。

※駐車場工事費については、附置義務台数 40 台分の駐車場を地下式で整備すると仮定して約 5 億円と想定した。

### (2) その他経費

---

新図書館の建設にあたり、上記の建設工事費以外に、次の経費が必要となると想定される。

#### 【根拠】

・基本設計委託費	約 0.4 億円
・実施設計委託費	約 1.0 億円
・監理委託費	約 0.6 億円
・備品費（書棚等）	約 4.0 億円
	約 6.0 億円

### (3) 財源

---

事業費の財源については、約 19 億円の図書館建設基金、国等の補助金、市債などの特定財源の活用に努め、一般財源の支出をできるかぎり抑制していく。

## 5. 図書館周辺施設

---

新図書館を A 街区に建設するにあたり、建設場所の周辺整備や周辺施設と連携することとし、次の項目について、関係部署と調整を図るものとする。

- ① 歩専 1 号線の修景整備
- ② ペDESTリアンデッキの活用の有無を含めた小牧駅、建設予定地、ラピオ間の歩行者動線の確保
- ③ ラピオ内のえほん図書館や生涯学習機能等の公共施設との連携
- ④ 周辺市営駐車場の整備

## 6. 今後のスケジュール

---

平成 29 年度	基本設計業務
平成 30 年度	実施設計業務
平成 31～32 年度	建設工事、図書購入、備品購入
平成 32 年度末	引越し、供用開始